

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100846		
法人名	(有)ティール・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも 1階		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成27年12月	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行なえるよう様々な分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自信を持って頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170100846-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのグループホーム「オークヴィレッジ かるがも」は、バス停から数分の住宅地に立地し、隣には大きな「かるがも公園」があり自然環境に恵まれている。2階建ての共用空間は広々としており、居室の近くに4ヶ所のトイレと洗面所を配置し、プライバシーにも配慮した造りになっている。開設12年が経過し、利用者は住民と交流しながら地域に溶け込んで暮らしている。町内会と事業所のお祭りには相互に行き来して交流を深めている。継続して行っている学童保育の子供達や中学生体験学習の来訪は利用者の楽しみになっている。管理者・職員間のコミュニケーションは良好で明るい姿勢で利用者に接し、常に話しかけて会話から思いを引き出して情報を共有している。全員でモニタリングを行い、個々の意向に沿って参加できそうなことを検討し、趣味や特技を活かして詳細な介護計画を作成してケアにつなげている。日々の散歩や外気浴の機会を積極的に作り、出掛けたい場所を聞き出して手作り弁当持参でのドライブを楽しみ、個別の外泊支援も計画的に行っている。普段から利用者の清潔に心を配り心地よく過ごせるように、排泄の自立に向けて工夫したり、いつでも入浴ができるように職員は熱心に取り組んでいる。手づくりの寿司パーティーやおやつ作りに利用者も参加して食事を楽しむなど、自立した暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り後に読み上げスタッフ一人一人が理念を念頭に置き実践できるよう心がけている。	運営理念と介護理念を申し送り時に唱和し、介護理念にある地域との交流を図る、という内容を意識して実践につなげている。地域交流の中で個々の利用者が参加できそうな内容を職員間で検討して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事・町内会のゴミ拾い等に参加し交流を深めている。	子供たちと交流する機会が多く、事業所の秋祭りには近隣の子供も参加している。学童保育のバザーに参加したり、七夕には子供達が来訪して紙芝居を披露して貰ったり、お互いに作品を交換して楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板などを通し高齢者の方が来訪しやすいよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、事業所の取り組みやサービス状況等の報告と会議の中で出された意見等はサービス向上に活かされている。	地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表の参加を得て、運営状況、行事、外部評価の結果、避難訓練などを報告して意見を交換している。家族代表は同じ方の参加になっている。町内会役員の参加を今後も働きかけたい意向である。	新しく入居される家族に、運営推進会議の意義を説明し参加につなげるように期待したい。会議の中でミニ勉強会を行う時は、会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見も収集して会議の話題にし、議事録に反映できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取り、日頃の事業所の状況や活動等の行ないを伝え又は相談しより良い関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で地域包括支援センター職員から成年後見人制度やSOSネットワークについての情報を得ている。区のグループホーム管理者連絡会の研修に職員も参加し、グループディスカッションの中で得たケアなどを参考にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しており身体拘束の禁止対象と成る行為や弊害を学び不適切な対応や言葉使い等については確認しながらケアに取り組んでいる。	職員採用時の研修で、身体拘束の弊害や不適切な言葉遣いなどを指導している。事例がある時はカンファレンスで禁止行為を再確認し、拘束をしないケアを話し合っている。「禁止の対象となる具体的な行為」を掲示しているが、11項目を読み上げるなど更に正しく理解できるように考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の意思及び人格を尊重しその人の立場に立ち処遇を行なうと共に、内部研修等で高齢者虐待の知識を身につけ虐待の無い介護に努めている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり制度を学ぶ機会と成っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不明な点の残らないように話し合い十分な説明を行ない理解・納得して頂けるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置とご家族来訪時等直接要望等を聞いている。要望・意見等は運営推進会議で報告している。	毎月、通信の個人欄に個々の様子を記載するほか、別のお便りで健康情報の報告を一緒に送っている。家族の来訪時に管理者や職員が対応し、利用者の状態を報告する中でケアの意向なども聴いている。意見などは日誌に記入し共有している。	新人職員も含め全職員が家族の些細な思いをも把握できるように、分かりやすい記録方法の工夫に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き運営に反映させるよう努めている。	毎月の全体会議で、対応など気づいた点を管理者から伝えたり、カンファレンスで話し合ったケアを議題にあげて活発に意見を交換している。管理者は日々職員とのコミュニケーションを密にして意向を聴き、必要に応じて個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は定期的に行なわれている全体会議にて話し合いをし反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各個人が行きたい研修等へは、積極的に行けるよう配慮したり(休日を取りやすくする等)。又、外部研修に参加する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や横のつながりを大事にし、管理者間での情報交換やネットワークづくりを行っています。又、研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に思いや訴えを出しやすい環境を作り不安や何を求めているか等理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞かせて頂き安心して利用して頂けるよう良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護度などから予測される行動等に注意を払っていくのと共にご家族やご本人の希望に沿ったサービスの提供に努める。又、希望に沿ったサービスが困難と思われる時は他のサービスを含めた対応が出来るように努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の力に応じた作業や日課を一緒に行なう事で職員と入居者の方が共に支え合えるような関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方等にも行事等に参加して頂き共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報やご本人の希望を聞きながらこれまでの馴染みの場や人との関係が途切れない用に支援に努めている。	開設12年が経過し、周囲の環境が馴染みになっており、近くの店で買い物をしている。家族とお墓参りに行く方もいる。会話から昔住んでいた場所が分かり職員同行で出かけている。知人からの年賀状の返事を手伝い、一緒に投函を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や感情の変化を理解した上で利用者同士がより良い関係を築けるような雰囲気作りを心掛けている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もできる事があれば相談・支援協力の意思をご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でゆっくり関わる時間を作り行動・表情等から意思や意向をくみ取る事が出来るよう努めている。	センター方式のシートを活用し、暮らし方、趣味、出来ることなどの情報を1年ごとに更新している。常に話しかけて会話から意向を聞きだしたり、目の動きなどで思いを把握してケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が歩んできた生活・環境等を把握し入居後も不安の無いように又新たな意見等も聞き入れように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や心身の状態を観察し職員同士情報交換しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人やご家族の思いを聞き取りより本人らしく暮らせるようモニタリング・サービス担当者会議で意見を出し合い介護計画を作成している。	前回の計画表を基に家族の意向を確認し、職員のモニタリングに沿って評価を行い、3か月毎に介護計画を作成している。計画を見ながら日々の記録を行っているが、更に短期目標項目に連動した番号に沿って記録ができるように工夫を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の言動や精神面の変化など様子を小まめに記録に残し、職員間で共有し実践の見直しや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の意見要望に対し、常にその状況に応じた柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手芸ボランティアさんに来ていただいたり、学童保育との交流や地域の小・中学生の生徒さんとの交流の機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師往診を行なっているが入居前からのかかりつけ病院に受診を希望される等ご本人・ご家族の要望に応じて受診できるよう支援している。	意向に沿って、殆どの利用者は協力医の訪問診療を受けている。かかりつけ医や専門的な他科受診時には家族に健康情報を渡しているが、家族の事情に応じて職員が同行することもある。個別毎に「医療情報」用紙に記録し内容を把握している。	

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを看護師訪問の際に報告し、個々の利用者が適切な往診や看護を受けられ利用支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の状況を出来るだけ伝えられるよう薬の情報や診療情報提供書を常備している。又、入院中は病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な医師や看護師の診察を行なう事で不調の早期発見に努めご家族に報告している。現在、終末期の方は居ないが認知症の進行に伴うレベルダウンについては常にご家族に理解していただけるよう努めている。	重度化への対応や看取りの考えを文書で説明している。状態の変化に応じて主治医の下で家族と話し合い、食事の形態を工夫したり、痛みの緩和や単発的な点滴などで対応している。最終的には家族の意向で病院での入院治療になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できるようマニュアルを作成しており、急変時には適切な対応が出来るよう話し合い職員全員で知識を高めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定訓練を通し、地域との協力体制も整えている。備品についても整備・管理している。	夜間を想定した総合訓練に町内会消防団員の参加を得て実施している。10月には新人職員を中心に自主訓練を行っている。以前に地震などの対応を話し合ったが、詳細な確認までは至っていない。	地震が起きた時の、共用空間や居室などの危険箇所を確認し、各ケア場面を想定した対応などを職員間で話し合い、安全面の確認を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉掛けの際には常に誇りを傷つけないよう、又、プライバシーに踏み込まない対応に努めている。	カンファレンスで、言葉遣いや対応について学んでいる。申し送りはスタッフルームで行い、個人記録はイニシャルで表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望をこたえやすいような声掛けをしたり、表情やしぐさなどからくみ取り自己決定に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人のペース・体調・気持ちに合わせてその人らしく暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している。自分で決められない方や重ね着をしてしまう方等には一緒に選んでいただいたり体温調節が出来るよう支援している。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で一人一人出来る事をして頂き、一緒に楽しみながら行なっている。	食材を活かしながら、利用者の好みに応じて献立を変更することもある。職員の手作り弁当を持って出かけたり、寿司パーティーを楽しんでいる。おやつにどら焼きやクレープなどを一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嚥下状態や体調に合わせた形状や量にて一日に必要な栄養量確保できるよう支援している。又、水分チェックを行ない不足しがちな方には少しずつ回数を増やす等支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。自分でできる方は磨き忘れが無いよう声掛けをし介助が必要な方は準備や部分的な声掛け等を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間誘導を行なったりトイレでの排泄を継続できるよう支援していく。	全員の排泄を記録しながら必要に応じて声かけを行い、現在半数程の方が自立している。入居時にトイレのタイミングや、排泄の意思表示があるか確認しながら排泄の自立に向けて取り組み、可能な限り綿パンツで過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫はもちろん、適度なその方にあった運動等を取り入れて予防対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合わせで曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人が気持ちよく入浴できるようタイミングや希望に合わせて好きな時に入浴できるよう支援している。	毎日、入浴順や同性介助など本人の意向に沿って午前から午後までの時間帯で入浴できる体制を整え、週3回程入浴している。身体状況に応じてシャワー浴を行う時もあるが、殆どの利用者は湯船に入って入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の状況に合わせて居室やリビングにて自由に休息を取って頂き夜間は入眠状況の確認を行ない気持ち良く眠りにつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的や副作用を理解しており、服薬支援の際は誤認防止の為声を掛け合い目で確認し、服薬後の症状の変化も含め確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味・特技を理解した上で一人一人が発揮できる場を提供し感謝の気持ちなどを伝えている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外にゴミ捨てや畑の野菜を収穫したり花を摘んだり戸外に出かける機会を作っている。又、定期的にドライブ外出を行ない季節感を味わえるよう支援している。	普段は、事業所の周りを散歩したり庭先やベランダで外気浴をしている。冬季も新川神社や北海道神宮への初詣や雪まつり見学に出かけている。花見や紅葉見学の他、年1回は個別支援で屯田ファームやモエレ沼公園などに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で保管出来る方にはして頂き、必要時には使用する事も可能な状況。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話を取り次いだり要望に沿った対応に努めている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう飾り等工夫をしたり、湿度・温度にも気を配り居心地よく過ごせるよう努めている。	居間と食堂が独立した広々とした造りで、好きな場所でゆっくり過ごせるようにソファの配置にも工夫している。掲示板に季節の装飾を施し、廊下の壁には学童保育の子供達からのプレゼント作品が飾られている。居室の近くにそれぞれトイレがあり、夜間なども使いやすくなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに過ごせるようソファの配置等工夫し気の合った方同士が座れるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を活かして本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	各居室に温湿度計を配置して、適切な環境作りに配慮している。使い慣れたタンスや三面鏡、アルバムや文庫本、写真集などを持ち込んでいる。職員からのメッセージカードや本人の作品などを工夫して飾り、個性的な居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで様々な場所に手すりを設置しており安全で自立した生活を送れるよう工夫している。			

オークヴィレッジかるがも
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170100846		
法人名	(有)ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも 2階		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成27年12月	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行なえるよう様々な分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自信を持って頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170100846-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所理念を記載したカードを携帯し、又毎日朝の引き継ぎ後には理念を唱え、共有意識の中で実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや学童保育のバザー・清掃活動等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の訪問体験の受け入れや、運営推進会議や回覧にて地域の方に知って頂けるようにしている。又、敬老会のお誘い等を行ない地域の方が参加しやすいようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ご家族や町内会の役員・民生委員の方等に参加して頂き、行事報告や運営状況等を報告し意見を頂き、施設内での会議でスタッフと話し合いサービスの向上を行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取り、日頃の事業所の状況や活動等の行ないを伝え又は相談もしより良い関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを常に目に入る場所に貼っており日々確認し、危険が有れば一部介助にし声掛けや、見守り等を中心としたケアを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の動向は常に職員が把握できるよう声掛けをしており、入居者に異変が生じた場合は、複数の職員で確認を行なっている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方がおり、学ぶ機会を実施されていないが支援は行なえている状況である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いを十分に行ない、ご家族の方や入居者の不安を解消するよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にご家族と会話し意見や要望があった際は日誌に記入しスタッフ間で共有し話し合いなどを行っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にスタッフの意見に耳を傾けている。又、全体の意見として月1度の会議にて意見交換している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が参加する会議にて、報告し把握して頂いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各個人が行きたい研修等へは、積極的に行けるよう配慮したり(休日を取りやすくする等)。又、外部研修に参加する機会を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区が行う会議等に参加し他事業所との交流を図り、サービスの質を向上させている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の人柄や生活環境等できる限り理解した上で、不安や要望をお聞きし、安心して入居できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望・要望を確認しながら傾聴し、不安等が取り除かれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況として、生活動作・食事・就寝・入浴・洗面・排泄・服や区等を見極めたうえで、本人が過ごしやすい環境を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自ら身体を動かして頂き、一緒に家事作業など行ない共に同じ時間を過ごし共に支え合える環境作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の状況を報告したり、毎月1回新聞を発行し写真を添付させて頂き又日常の様子等をお知らせさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で昔話し等で思い出す機会を設けたり、具体的な名前や時期等思い出せるような会話をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の中で入居者同士が関わりあえる環境作りをしており、孤立したり寂しさがないうよう支援をしている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談事が有れば支援出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から要望等読み取りスタッフ間で情報交換を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況について、家族や施設・病院等により情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の情報は、スタッフ間で毎日報告・連絡・相談をしながら現況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に見合った計画作成の為、定期的な見直しや状況が変化した時は都度話し合いを行ない計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を業務日誌や個人記録に記載すると共に、申し送りの中で情報を共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化や家族の変化を見極め既存のサービスに捉われず柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からは定期的な手芸ボランティアや年数回学童保育の小学生たちが来訪し交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な内科医師や歯科医師の往診の他、入居前からのかかりつけ医がある場合や希望がある時は自由に受診されている。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週来られる看護師に、入居者の健康状況を説明し、又変化がある場合は相談をし、適切な対応をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、入院前の状態を説明させて頂いている。又、病院関係者と情報交換を行ない早期に退院出来るよう関係作りを行なっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りにつき入居前よりご家族の方と話し書類を交わしている。又、入居後重度化した場合や体調に変化があった場合は都度話し合いをする場を設けている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成管理しており、職員は熟知している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し防災訓練を全員が出来るように定期的に行なっている。又、非常時の持ち出し袋も用意している。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせプライバシーを傷つけないような言葉掛けや傍に行き他の方に聞こえないよう小さな声で言葉掛けをしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状況に応じて自己決定がしやすいように、二者選択等わかりやすい方法で自己決定をして頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が落ち着いて安心できるように本人のペースで過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみや、誕生日・母の日等にはお化粧品などを勧めたりしている。又、訪問理美容も個々に合わせ行なっている。			

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や状況に合わせて一緒に準備・食事・片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事量や食事形態が異なる為、個人ごとにバランスの良い栄養摂取や水分提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで出来る方は自らして頂いている。又、難しい方に関しては介助にて口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツのしよを減らせるよう努めている。排泄の失敗がないよう必要な方は時間にて誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、乳製品の提供を多くしたり、トイレ時に腹圧をかける等予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の状況に合わせて希望時間を確認したり、タイミングを見て声掛けをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムとして日中は起きていただき、夜は安眠して頂く事を前提としていますが、日中も本人の状況に合わせて休息は自由に取られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の薬剤情報を理解しており、変更等が生じた場合は申し送りや業務日誌等に記載し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日一日が充実して過ごせるよう、身の回りの片づけやお手伝いをしたり、余暇を過ごせるような趣味や楽しみを提供している。		

オークヴィレッジかるがも

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価(2階)	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて、天気の良い時等、近所の公園や買い物などに外出されています。又、本人の希望でお墓参りやレンタルビデオ店等にも行かれています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方はお金を所持して頂き、買い物などで使えるように支援している。金銭管理が難しい方は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙は自由にやり取りできる。電話が出来ない方は、スタッフが電話をかけ繋げる時もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日にちや時間が何処に居ても分かるように、カレンダーや壁掛け時計を多く設置しています。又、壁には季節を感じるような壁紙や掛け物も定期的に貼り替えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに気の合った者同士が過ごせる多人数のソファを配置し自由に利用できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行空間には危険物がないよう広さを確保し、手すりの設置、食卓の椅子の高さ等安全面にも配慮している。		

目標達成計画

事業所名 オークヴィレッジかるがも

作成日：平成 28年 1月 7日

市町村受理日：平成 28年 1月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーが定着している為新たなメンバーが参加しやすいような内容を提供する。	ご家族や町内会の方が興味を持たれるような内容に変えて行く。	ミニ勉強会を設けたり、参加できないご家族にも意見を頂けるようにする。	1年間
2	10	ご家族の意向を全スタッフで共有しているものの記録の内容が不十分な所がある。	どのスタッフが見ても分かる様な記録にする。	現在使用している用紙と記入方法の見直しを行っていく。	2か月
3	35	火災以外の災害対策における対応の統一が不十分な点がある。	共用空間及び居室等の危険個所の再確認をしていく。	職員間で安全面の話し合いを行っていく。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。